

令和10年度から

新研究主題

「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す

人財の育成を目指す小学校教育の推進」

全国連合小学校長会

全国連合小学校長会は、令和2年度第72回京都大会から「自ら未来を拓き とともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として、実践的な研究を積み重ね令和の小学校教育の在り方を追究し、多くの成果をあげてきた。この間、全国の小学校は、令和2年3月、新型コロナウイルス感染症による全国一斉の休校というこれまでにない経験をした。先が見えない困難な状況の中、子どもたちの学び、教師の学び、そして我々校長の学びを止めないという強い意志のもと、教育に携わる誰もが知恵を出し合い、学校の教育活動を工夫し展開してきた。そして、Society5.0の実現を目指している社会の流れの中で、これまでの実践や研究成果を生かし、小学校教育の役割と時代の潮流や現代社会の課題を踏まえ、創造性を高めしなやかな知性を発揮して、豊かな社会づくりに貢献できる日本人の育成を目指す小学校教育の推進に鋭意努力してきた。

令和6年12月、次期学習指導要領の改訂に向けて文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされた。2040年以降の社会を見据え、「令和の日本型学校教育」の継承・発展を前提として、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を3つの柱として三位一体で具現化を図り、全ての子どもの多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現に向けた教育課程の在り方について検討されている。

現代の社会は、深刻さを増す少子化・高齢化、紛争等により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の急速な発展といった大きな変化により、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。

これからの我が国を担い、未来社会を生きる子どもたちは、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることや、異なる価値観をもつ多様な人々とともに対話を行い、問題を発見・解決し、豊かで持続可能な社会を創る力を身に付けることが必要である。一方、情報通信技術（ICT）の利用、体力や健康課題、子どもの貧困、特別な支援を要する子どもの増加、外国につながる子どもたちの日本語能力の多様化、不登校児童数の高水準での推移など、子どもを取り巻く環境の変化と課題が多様化・複雑化している。

こうした社会状況の変化の中で、これからの新しい時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成する学校には、教育の「不易と流行」を踏まえ、教育基本法等に掲げられた教育の目的・目標に基づき公教育を担う極めて重要な役割がある。また、長年育ててきた「生きる力」の取組の成果を継承・発展させ、学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を社会と共有し、相互に連携・協働して学校教育を推進する「社会に開かれた教育課程」を実現していかなければならない。

これらのことを踏まえ、令和10年度からの研究主題を「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す 人財の育成を目指す小学校教育の推進」と定める。

本研究主題は、小学校教育の役割とこれまでの全連小の研究成果を踏まえ、不確実性の高い時代にあっても社会の変化に主体的に関わり、新たなことにも挑戦し自らの力で人生を切り拓いていく

人財、そして、多様な人々とともに、誰もが幸福と感じられる豊かで持続可能なよりよい社会を創り出す人財の育成が求められているととらえ設定した。研究主題における「人財」とは、未来に生きる子どもたちの存在であり、存在そのものが尊く、一人一人が社会を形成する人としての宝であるとともに、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在である。

全国連合小学校長会は、本研究主題について日々真摯な研究を重ね、その成果を学校経営に生かすとともに、新しい課題に応える教育の推進に全力を傾注していく。また、研究に当たっては、特に次の事項を重視し、学校経営及び日常の教育活動を通して、積極的に研究・実践に努めていくこととする。

1 学校経営

校長の学校経営に求められること

時代の変化と保護者や地域、社会の期待を的確に把握し、校長の明確なビジョンのもと、活気ある学校組織と経営体制を築き、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現する学校経営を推し進めていく校長のリーダーシップが必要である。

2 カリキュラム・マネジメント

「社会に開かれた教育課程」の実現に求められること

学校の創意工夫のもと、一人一人の豊かな学びを実現し、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力や、異なる価値観をもつ多様な人々とともに対話を行い、問題を発見・解決し、豊かで持続可能な社会を創る力を身に付け、社会や人生をよりよいものにしていく人財を育成するためのカリキュラム・マネジメントの実現が必要である。

3 指導・育成

学び続ける教師の育成と資質・能力の向上を図る研究・研修の充実を図ること

教育課程の実現には、教職員の指導力が求められる。教員の資質向上を担うために、研修制度の在り方やOJT等の指導体制の確立、増加する若手教員を含め、主任・主幹教諭等のミドルリーダーの育成、次世代の学校を担う管理職の発掘と育成等、人材育成の方策を探っていく必要がある。

4 危機管理

安全・安心な学校を確立するため、校長をはじめ学校管理職の強い危機管理意識が求められる。現代の学校の危機管理は、授業が成立しない状況やいじめ問題への対応等、学校経営全般に関わる。また近年、地震や集中豪雨等の自然災害、交通事故や不審者への対応等、学校内外での危機への対応と未然防止策を常に明確にしておく必要がある。

5 今日的な教育課題

時代の変化を見定めた新たな教育課題等への対応が求められる。

校長には、時代の変化を見定め、新たな教育課題に対応することが求められる。特別支援教育等子どもの発達への支援、情報活用能力の育成、学校種間連携等重要な教育課題が増えている。校長は新たな課題への問題意識と具体策をもちながら、学校経営を推進していく必要がある。

全国連合小学校長会 新研究主題

＜研究主題＞

「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す
人財の育成を目指す小学校教育の推進」

＜解釈（キーワード）＞

「自ら未来を切り拓き」

小学校教育を通して、子どもたちが自らの人生を目的に向かって、自ら学び、自らの可能性を信じて主体的に選択・判断していくとともに、新たなことにも挑戦し、これからの未来や可能性などを自らの力で切り拓いていくこと。

「多様な人々とともに」

現代社会は、様々な異なる背景がある人々が共存している。その社会の中で、自分自身も多様な存在として意識するとともに、それぞれの個性を尊重し合い新たな見方・考え方や解を見つける等多様性を包摂する共生社会をともに目指していくこと。

＊多様性（ダイバーシティ）と解することも含めるととらえる。

「豊かな社会を創り出す」

深刻さを増す少子化・高齢化、紛争等により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成 AI などデジタル技術の急速な発展といった大きな変化により、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。このような社会の様々な変化への対応のみならず新たな解を見いだして持続可能なそして誰もが幸福と感ぜられるよりよい社会を創造すること。

「人財」

その人そのものの内面の豊かさを含めて価値ある尊い存在であり、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在として、一人一人が社会を形成する宝ととらえる。

＊社会を形成するとは、社会を構成し、社会と関わり合うということ。

＜解釈（研究主題文）＞

自分の将来を見据えて、人生の目標に向かって自らの可能性を信じて切り拓くとともに、不確実性がより高まってきている社会の中で、多様な人々とともに誰もが幸福と感ぜられる豊かな社会を創り出そうとする「人財」の育成を目指す小学校教育を推進していく。

＜主題設定の理由＞

① 現主題の総括

全国連合小学校長会は、令和2年度第72回京都大会から「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として、実践的な研究を積み重ね令和の小学校教育の在り方を追究し、多くの成果をあげてきた。

この間、全国の小学校は、令和2年3月、新型コロナウイルス感染症による全国一斉の休校というこれまでにない経験をした。先が見えない困難な状況の中、子どもたちの学び、教師の学び、そして我々校長の学びを止めないという強い意志のもと、教育に携わる誰もが知恵を出し合い、学校の教育活動を工夫し展開してきた。

そして、Society5.0の実現を目指している社会の流れの中で、これまでの実践や研究成果を生かし、小学校教育の役割と時代の潮流や現代社会の課題を踏まえ、創造性を高めしなやかな知性を発揮して、豊かな社会づくりに貢献できる日本人の育成を目指す小学校教育の推進に鋭意努力してきた。

② 教育の今後の方向性

令和6年12月、次期学習指導要領の改訂に向けて文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされた。2040年以降の社会を見据え、「令和の日本型学校教育」の継承・発展を前提として、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を3つの柱として三位一体で具現化を図り、全ての子どもの多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現に向けた教育課程の在り方について検討されている。（令和8年度中に中教審答申が出される予定）

③ 新主題の設定について

現代の社会は、深刻さを増す少子化・高齢化、紛争等により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の急速な発展といった大きな変化により、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。

これからの我が国を担い、未来社会を生きる子どもたちは、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることや、異なる価値観をもつ多様な人々とともに対話を行い、問題を発見・解決し、豊かで持続可能な社会を創る力を身に付けることが必要である。

一方、情報通信技術（ICT）の利用、体力や健康課題、子どもの貧困、特別な支援を要する子どもの増加、外国につながる子どもたちの日本語能力の多様化、不登校児童数の高水準での推移など、子どもを取り巻く環境の変化と課題が多様化・複雑化している。

こうした社会状況の変化の中で、これからの新しい時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成する学校には、教育の「不易と流行」を踏まえ、教育基本法等に掲げられた教育の目的・目標に基づき公教育を担う極めて重要な役割がある。

また、長年育ててきた「生きる力」の取組の成果を継承・発展させ、学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を社会と共有し、相互に連携・協働して学校教育を推進する「社会に開かれた教育課程」を実現していかなければならない。

④ 新主題の提示

これらのことを踏まえ、令和10年度からの研究主題を「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す 人財の育成を目指す小学校教育の推進」と定める。

本研究主題は、小学校教育の役割とこれまでの全連小の研究成果を踏まえ、不確実性の高い時代にあっても社会の変化に主体的に関わり、新たなことにも挑戦し自らの力で人生を切り拓いていく人財、そして、多様な人々とともに、誰もが幸福と感じられる豊かで持続可能なよりよい社会を創り出す人財の育成が求められているととらえ設定した。

研究主題における「人財」とは、未来に生きる子どもたちの存在であり、存在そのものが尊く、一人一人が社会を形成する人としての宝であるとともに、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在である。

⑤ 決意

全国連合小学校長会は、本研究主題について日々真摯な研究を重ね、その成果を学校経営に生かすとともに、新しい課題に応える教育の推進に全力を傾注していく。また、研究に当たっては、特に次の事項を重視し、学校経営及び日常の教育活動を通して、積極的に研究・実践に努めていくこととする。

○ 研究領域については 5 領域とする。

- 1 学校経営 2 カリキュラム・マネジメント 3 指導・育成 4 危機管理
- 5 今日の教育課題

○ 全国大会における分科会構成は 5 領域と 12 分科会

1 学校経営

校長の学校経営に求められること

時代の変化と保護者や地域、社会の期待を的確に把握し、校長の明確なビジョンのもと、活気ある学校組織と経営体制を築き、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現する学校経営を推し進めていく校長のリーダーシップが必要である。

①「経営ビジョンの構築」

自校及び地域の課題把握とそれに基づく明確な経営ビジョンの提示

②「組織マネジメント」

校内組織体制の構築及び良好な職場環境の確保（働き方改革の実現に向けた取組を含む）

③「学校外とのコミュニケーション」

地域や家庭、関係機関との連携による学校経営の推進

2 カリキュラム・マネジメント

「社会（地域）に開かれた教育課程」の実現に求められること

学校の創意工夫のもと、一人一人の豊かな学びを実現し、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力や、異なる価値観をもつ多様な人々とともに対話を行い、問題を発見・解決し、豊かで持続可能な社会を創る力を身に付け、社会や人生をよりよいものにしていく人財を育成するためのカリキュラム・マネジメントの実現が必要である。

④「授業改善」

学校（校長）の教育課程編成力

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（柔軟な教育課程の編成も含める）
- ・学習評価の充実

⑤「教育環境」

教育課程の実現に向けた学校内外の教育資源の開発と活用

- ・デジタル学習基盤の効果的な活用
- ・地域と協働した教育活動の充実

⑥「すこやかな心と体」

- ・人権教育・道徳教育の推進や健康教育の充実

3 指導・育成

学び続ける教師の育成と資質・能力の向上を図る研究・研修の充実を図ること

教育課程の実現には、教職員の指導力が求められる。教員の資質向上を担うために、研修制度の在り方やOJT等の指導体制の確立、増加する若手教員を含め、主任・主幹教諭等のミドルリーダーの育成、次世代の学校を担う管理職の発掘と育成等、人材育成の方策を探っていく必要がある。

⑦「研究・研修」

- ・学び続ける教師の育成を図る校内・校外における研究・研修体制の確立、改善

⑧「人材育成」

- ・教員の年齢（経験年数等）に応じた研修体制の充実（OJTの推進も含む）
- ・将来の学校管理職の育成の方策や新任管理職への研修体制の充実

4 危機管理

安全・安心な学校の確立のために、校長をはじめ学校管理職の強い危機管理意識が求められる。

現代の学校の危機管理は、授業が成立しない状況やいじめ問題への対応等、学校経営全般に関わる。また近年、地震や集中豪雨等の自然災害、交通事故や不審者への対応等、学校内外での危機への対応と未然防止策を常に明確にしておく必要がある。

⑨「学校安全」

- ・いじめ問題への対応をはじめ、児童の問題行動等への対応
- ・所属職員の忌避や服務問題等への対応
- ・学校施設の管理等学校経営全般に関わる学校内外での危機への対応と未然防止

⑩「危機対応」

- ・大きな地震や集中豪雨等の自然災害への事前対応とその後の復旧・復興の対応
- ・交通安全教育（交通事故）、不審者の対応等

5 今日的な教育課題

時代の変化を見定めた新たな教育課題等への対応が求められる。

校長には、時代の変化を見定め、新たな教育課題に対応することが求められる。特別支援教育等子どもの発達への支援、情報活用能力の育成、学校種間連携等重要な教育課題が増えている。校長は新たな課題への問題意識と具体策をもちながら、学校経営を推進していく必要がある。

⑪「子どもの発達への支援」（教育課題１）

- ・特別な配慮を必要とする子どもへの指導・支援
- ・キャリア教育等の充実
- ・不登校への対応

⑫「地域において取り組む課題」（教育課題２）

主管県・地区で取り上げたい教育課題をテーマに設定

（例）

- ・情報活用能力（情報モラルを含む）
- ・保幼小連携 小中連携
- ・学校統廃合にともなう地域教育力の維持・充実